

## 寿命調査 第 14 報 がんおよびがん以外の死亡率データ、1950－2003 年

この文書は寿命調査（LSS）における 1950－2003 年の“がん”および“がん以外の疾患”死亡率の解析に用いられたデータについて説明するものである。これらの解析結果は、*Radiation Research* に掲載された論文 LSS Report 14 に説明されている（Ozasa K, Shimizu Y, Suyama A, Kasagi F, Soda M, Grant EJ, Sakata R, Sugiyama H, Kodama K: Studies of the mortality of atomic bomb survivors, Report 14, 1950–2003: An overview of cancer and noncancer diseases. *Radiat Res* 2012 (March); 177(3):229–43）。

公表されたデータのファイルは以下の通りである。

<b>lss14.csv</b>	“がん”および“がん以外の疾患”死亡率データファイル、1 行目には変数名が入っているコンマ区切りの文書ファイル
<b>lss14.scr</b>	データファイルを読み取り、当該論文で使用されている基礎的モデルを当てはめるための Epicure (AMFIT) コマンドスクリプト
<b>lss14.log</b>	Lss14.scr により作成されたログファイル

データセットは、人年、死亡数、ならびに各被爆者のデータから構築した要約データを詳細な表にしたものである。解析対象者は 86,611 人の被爆者である。各被爆者データは、都市、性、被爆距離、成人健康調査、被爆時年齢、年齢、暦年および結腸線量別に層化されている。LSS Report 14 では、被爆距離、成人健康調査を使用していないが、このデータセットでは、この二つの変数についても層別した。以下に示す最初の 8 個の変数は、表の作成に用いた交差分類を示す指標で、次の 4 個は各セルの調査対象者数、人年数、および被爆時年齢と到達年齢のセル別平均値である。次の 10 個は臓器線量のセル別平均値である。続く 29 個の変数は死因ごとの死亡数を示す。

これらのデータを研究報告書や業績報告書など、何らかの出版物のための解析の基盤として使用する場合には、原稿に謝辞を加えなければなりません。謝辞は以下の通りとします。

用いたデータは広島および長崎の放射線影響研究所（放影研）から入手したものである。放影研は、日本の厚生労働省（厚労省）ならびに米国のエネルギー省（DOE）により資金提供を（後者については、その一部を米国学士院に対する DOE 研究助成金 DE-HS0000031 を通じて）受けている公益法人である。この報告書に示した結論は著者のものであり、必ずしも放影研またはその資金提供機関の判断を反映するものではない。

これらのデータを利用して書いた論文の別刷りを 1 部、下記宛にお送りください。

〒732-0825

広島市南区比治山公園 5-2

放射線影響研究所

情報技術部 図書資料課 資料係

これらのデータは放影研ホームページより入手可能です。(http://www.rerf.jp/)

詳細説明：

名称	説明およびコード		
<b>city</b>	都市	1: 広島	2: 長崎
<b>sex</b>	性	1: 男性	2: 女性
<b>gd3</b>	被爆距離	1: <3 km	2: 3–10 km
<b>ahs</b>	AHS 集団	0: not AHS	1: AHS (original) 2: AHS (addition)
<b>agexcat</b>	被爆時年齢区分		
	1: 0–5 years old	9: 40–45	
	2: 5–10	10: 45–50	
	3: 10–15	11: 50–55	
	4: 15–20	12: 55–60	
	5: 20–25	13: 60–65	
	6: 25–30	14: 65–70	
	7: 30–35	15: 70+	
	8: 35–40		
<b>agecat</b>	到達年齢区分		
	1: 0–5 years old	12: 55–60	
	2: 5–10	13: 60–65	
	3: 10–15	14: 65–70	
	4: 15–20	15: 70–75	
	5: 20–25	16: 75–80	
	6: 25–30	17: 80–85	
	7: 30–35	18: 85–90	
	8: 35–40	19: 90–95	
	9: 40–45	20: 95–100	
	10: 45–50	21: 100+	
	11: 50–55		
<b>ctime</b>	暦年区分		
	1: 1950/10/1–1955/12/31	7: 1981/1/1–1985/12/31	
	2: 1956/1/1–1960/12/31	8: 1986/1/1–1990/12/31	
	3: 1961/1/1–1965/12/31	9: 1991/1/1–1995/12/31	
	4: 1966/1/1–1970/12/31	10: 1996/1/1–2000/12/31	
	5: 1971/1/1–1975/12/31	11: 2001/1/1–2003/12/31	
	6: 1976/1/1–1980/12/31		

<b>dosecat</b>	DS02 加重結腸線量区分（ガンマ線量 + 中性子線量 × 10） 1: 0–5 mGy 2: 5–20 3: 20–40 4: 40–60 5: 60–80 6: 80–100 7: 100–125 8: 125–150 9: 150–175 10: 175–200 11: 200–250 12: 250–300 13: 300–500 14: 500–750 15: 750–1000 16: 1000–1250 17: 1250–1500 18: 1500–1750 19: 1750–2000 20: 2000–2500 21: 2500–3000 22: 3000+
<b>subjects</b>	観察対象者数；はじめの時間区分における人数
<b>pyr</b>	観察人年
<b>agex</b>	人年加重平均被爆時年齢（歳）
<b>age</b>	人年加重平均到達年齢（歳）
<b>colon10</b>	DS02 加重結腸線量（mGy）
<b>stomach10</b>	DS02 加重胃線量（mGy）
<b>bladder10</b>	DS02 加重膀胱線量（mGy）
<b>liver10</b>	DS02 加重肝臓線量（mGy）
<b>pancreas10</b>	DS02 加重膵臓線量（mGy）
<b>lung10</b>	DS02 加重肺線量（mGy）
<b>breast10</b>	DS02 加重乳房線量（mGy）
<b>uterus10</b>	DS02 加重子宮線量（mGy）
<b>ovary10</b>	DS02 加重卵巣線量（mGy）
<b>marrow10</b>	DS02 加重骨髓線量（mGy）

死亡数	死因	9th ICD codes
death	すべての死亡	
solid	すべての固形がん	140–199
esoph	食道がん	150
stomach	胃がん	151
colon	結腸がん	153
rectum	直腸がん	154
liver	肝臓がん	155(0,1,2)
gallbldr	胆嚢がん	156
pancre	膵臓がん	157
othdig	その他の消化器がん	158, 159
lung	肺がん	162
breast	乳がん	174, 175
uterus	子宮がん	179–180, 182
ovary	卵巣がん	183
prostate	前立腺がん	185
bladder	膀胱がん	188
kidney	腎臓がん	189.0
othuri	腎盂、尿管、その他の泌尿器がん	189(1,2,3,4,8,9)
othsolid	その他の固形がん	Others in 140–199
leukemia	白血病	204–208
lymphoma	悪性リンパ腫	200–202
myeloma	多発性骨髄腫	203
blooddis	がん以外の血液疾患	280–289
CVD	循環器疾患	390–459
respiratory	呼吸器疾患	460–519
digestive	消化器疾患	520–579
genitourinary	泌尿生殖器疾患	580–608, 610–629
inf	感染症	001–139
external	外因死	800–999

ICD code 7th、8th、10th については、LSS Report 14 の Appendix を参照してください。